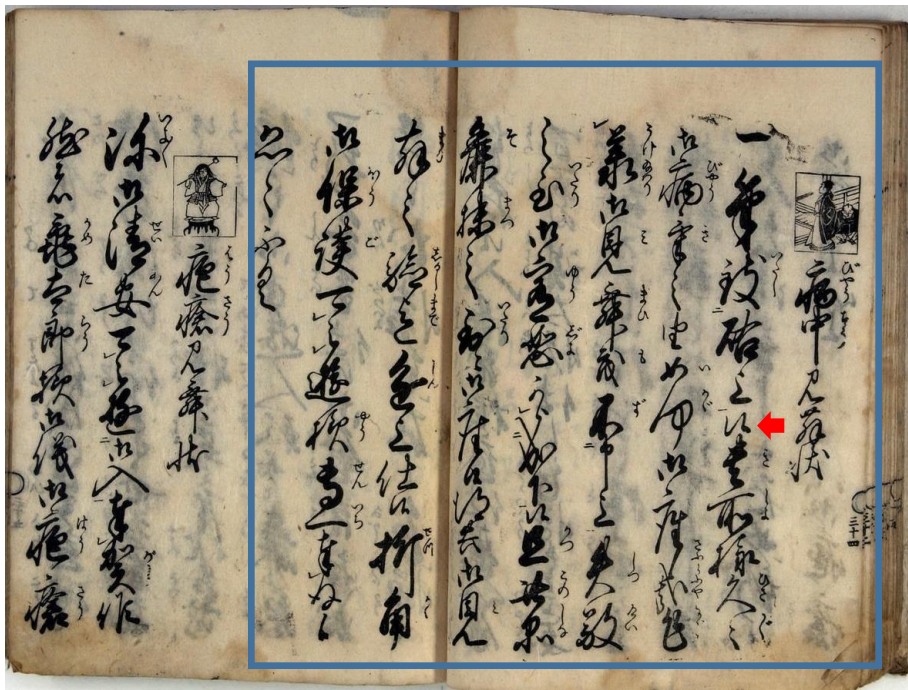


勝見宗左衛門家文書「大成用文章(往来物)」 当館蔵

難易度★☆☆☆

◆江戸時代の簡易な文例集を「往来物」といい、当時手習いの教科書として使われました。今回は江戸時代後期の絵入り往来物の冊子から典型的な書状の文例を取り上げます。



解説のヒント

写真の一行目には「病中見舞状」と書いてあり、そのあとに8行にわたってお見舞い状の文例が書かれています。よく見ると「よみがな」や返り点がつけられており、ヒントになりそうです。ただ、江戸時代の書状など古文書には句読点はありません。そこで文末に使用される「候(そうろう)」を読むことが重要です。

例えば最初の文の書き出しは、「一筆」という文字が見えますが、矢印が「候」で文末になります(この形の「候」はほかに3か所に使われています)。その次の文では、様子を伺うとともに、長期間病氣ということを伝え聞いていたがお見舞いもできなかったことを詫言、許しを乞うています。

現代ではあまり聞き慣れない表現もありますが、お見舞い状の内容は現代のものに似ています。お見舞いのさいの言葉のパターンをいろいろと考えながら読んでみましょう。

次の資料翻刻文の空欄□に入る文字を記入しましょう。

病中見舞状

一筆□二啓上一候、貴所様久々

御病氣□□、如何御座候哉、乍

承 御見舞□不□上、失敬

之至御宥恕□□二成下一候、且此品

鹿抹之至二御座□□□、御見

舞之験迄進上□□、折角

御保護□□レ遊様専一奉レ存候、

恐々不具

★「よみがな」と返り点(一・二・レ)に注意

お名前またはペンネーム

(添削をご希望される場合は、「お名前またはペンネーム」をご記入の上、文書館閲覧室のカウンターにご提出ください)

座学講座のお知らせ

7月5日(申)・12日(日)・19日(日)・23日(木)、10時30分～12時(午前の部) / 13時30分～15時(午後の部)、於研修室、各回定員18名、

要申込。 ※午前と午後は同じ内容です。お申し込み時にご希望を伺います。